

私は、大学 3 年生になって英語の授業がなくなったことに危機感を感じ、英語に触れる機会を得るため、イギリス夏期英語研修に応募しました。この研修は、応募要件の語学基準（TOEIC のスコア 600 点程度）を満たしていれば、応募することができます。参加内定後は書類提出が多く、校内英語のテストもあり、決して楽ではありませんでした。これらの提出期限を守るという意識が、研修先においてもとても役に立ちました。

研修先は、ロンドン大学アジア・アフリカ学院（SOAS）のサマープログラムで、英語圏以外の地域出身の留学生を対象としていました。ロンドン大学はその名の通りロンドンの中心地にあり、学生寮の最寄り駅はハリーポッターで有名なキングスクロス駅でした。私は理系だったので、選択制のコースのなかで唯一の理系分野の内容のコース（Environment & Development）を受講しました。3 週間、平日は午前 9 時から午後 4 時までの間に 3～4 コマ程度の授業があり、それ以外はすべて自由時間でした。1 教室あたり約 10 人の少人数で、授業を担当する教授と、その授業前のイントロダクションをしたり難しい箇所を解説したりするサポートティーチャーがいました。初めは教授の言っていることが理解できず、絶望しました。生活面においても、初日から学生寮の Wi-Fi が繋がらなかったり、洗面所の電気が故障していたり、トラブル続きで、寮に常駐のスタッフの方とも意思疎通が十分にはかれず、不安で帰りたい気持ちでいっぱいになりました。

研修前のオリエンテーションでは、国際センターの教員の方が、英語の勉強をしっかりと、基礎を固めてから臨んだほうがよいと言っていました。今まで研修に参加した先輩方も参加後に、英語学習の事前の準備について後悔していたと聞きました。このようなアドバイスを受けていたにもかかわらず、私は結局、研修参加内定から当日までの 3 ヶ月ほど特に何も勉強をしていませんでした。また、私はもともと人と仲良くなって打ち解けるまでに結構時間がかかる性格であったため、あまり他の留学生と仲良くなろうとしていませんでした。最初の 1 週間のイギリス生活は苦しかったです。

最初の 1 週間が過ぎて 2 週間目からは英語の聞き取りにも慣れ、英語で意見を述べることへの抵抗感がなくなりました。度胸がついてからは、1 人で観光をし、美しい町並みや美味しい食べ物に触れて心が満たされました。それは、最初の 1 週間を感じさせないほど自分にとって心に残る、自信に繋がる経験となりました。だからこそ、最初の 1 週間が惜しく感じられました。

これから研修参加を考えている皆さんには、後悔しないように、最初から存分に研修生活を楽しんでほしいです！研修に参加する前に単語や基本文法の復習、リスニングをするなど「英語の学習」を毎日習慣化すること、一緒に研修に参加する仲間と仲良くなっておくこと、この 2 点をぜひ実践してから研修に臨んでもらいたいと思います。